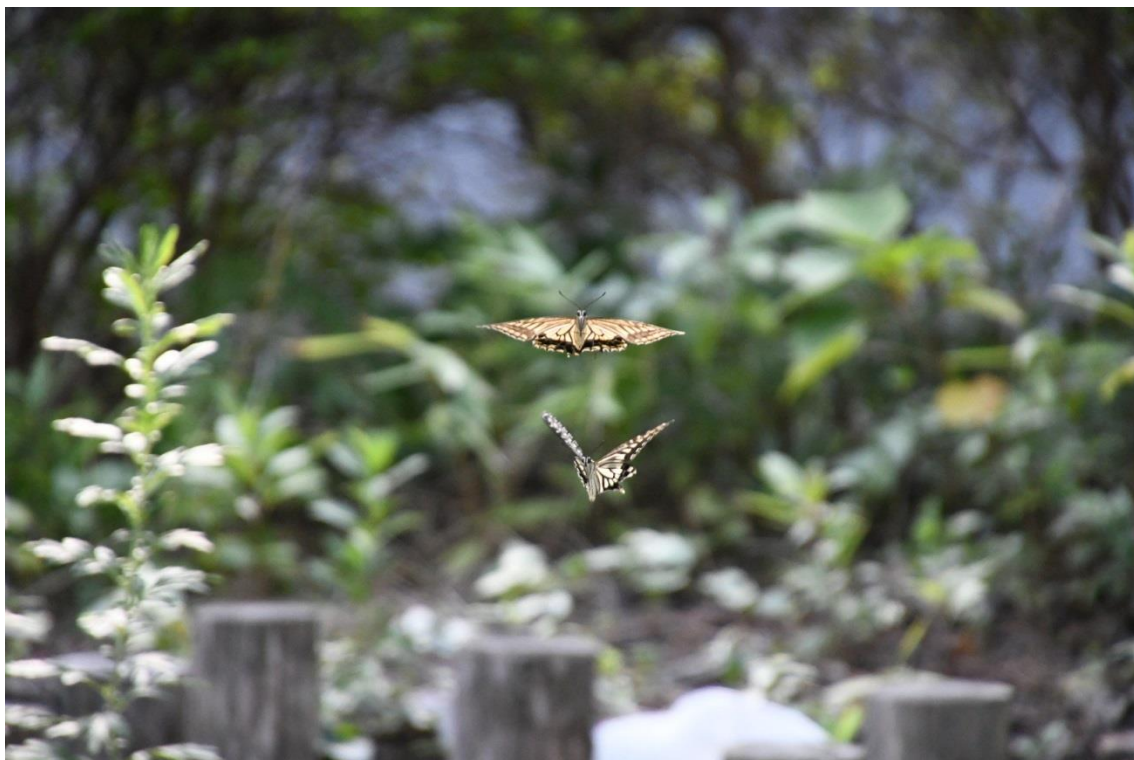


作品 No.272



生きものの“つぶやき”:

「ちょっとー！こっち来ないでよー！」

エッセイ:

家の近くを流れる川の上を、2匹のアゲハチョウが飛んでいた。綺麗な昆虫が好きな私は、夢中になって2匹を目で追いかけた。羽が完全に開いているアゲハが、もう1匹を追いかけている。これは、もう1匹に対する求愛とも、縄張りを警戒してるともとれる。前者であれば、追いかけているがこう呟くだろう、「ちょっとー！こっち来ないでよー！」と。しかし、後者なのであれば、追いかけている方が同じように呟くであろう。一体、どっちがそう呟いているのだろうか。アゲハチョウに言葉が通じるならば、聞いてみたいものだ。

(245字)

生きものの紹介:

アゲハチョウ

南極大陸以外のすべての大陸に生息する。日本のアゲハチョウ科は、ミカンやサンショウの葉を食べる。

撮影場所・日時:

東京都江戸川区 一之江親水公園・2019年9月1日

応募者の自己紹介:

1. 稲岡 慎之介 (いなおか しんのすけ) / 学校法人成城学校 成城高校
2. 科学部
3. 将来の夢: 中高 社会科教員

審査員よりひとこと

一瞬を切り取った写真がすばらしい。タイトルも面白い。チョウはナミアゲハのメス(上)とオス(下)です。オスがメスに対して配偶行動を示していますが、おそらくメスは交尾済みのために逃げていると思われます。

作品 No.176



生きものの“つぶやき”:

「ふう、流石に子供はここまで来れまい」

エッセイ:

ここはとある公園。私は考え事をしながら歩いていると、目の前を何かが通った。かなり小さな生物だった。そう、エゾリスだ。私は間合いを取り、刺激しない距離から撮影を行なった。初めて見る野生のリスに興奮し、近づきたい気持ちをグッと抑えていた。そこに、公園で遊んでいた小さな子供達が「リスだ!」と、大声で叫び回って彼を追いかけ回した。無論、彼は逃げた。この、大木の上に。子供達は落胆し、木を眺めていた。だが、このような光景を見れるのも、今だけなのかもしれない。この公園の様な自然豊かな場所を残さなければ子供達が動物と自然界で触れ合える場所というものは無くなってしまう。この場所だけでない。地方でも、都市部でもだ。どんなに今後発展を続けても、自然をむやみやたらに破壊することは絶対に避けねばならない。破壊されたものは、簡単には戻らないのだ。そう、私達の世代が率先して後世の為に自然を守らねばならない。(394字)

生きものの紹介:

エゾリス

北海道に生息するリスの一種。雑食性。毒キノコを食べることもある。基本的には昼行性。前肢の指が長い為、物を持つことができる。

撮影場所・日時:

北海道阿寒郡鶴居村グリーンパークつるい・2019年5月3日13時4分

応募者の自己紹介:

1. 稲岡 慎之介 (いなおか しんのすけ) / 学校法人成城学校成城高校2年
2. 科学部
3. 将来の夢: 中高 社会科教員

審査員よりひとこと

写真が可愛い。表情と手の位置が絶妙。エッセイにあるように人と動物のふれあう場所も大切ですね。